創世記第11章

文責：T

11-2

時に人々は東に移り、シナルの地に平野を得て、そこに住んだ

・・・これがバベルの町、そして11-2にある「塔」が「バベルの塔」と呼ばれているそうです。

※バベル・・・メソポタミア地方の古代都市バビロンのこと。街の中心地にバビロニア神話の神を祭る聖塔（ジッグラト）があった。（今でも「エ・テメン・アン・キ」と言われるジッグラトの遺跡は残っている。）

問　バベル（バビロン）は何の象徴？

問　「塔」は何の象徴？

SQ.歴史的な、あるいは現代における「バビロン」「バベルの塔」を挙げてみて下さい

問　レンガ、アスファルトは何の象徴？

問　「全地の面に散るのを免れる」って？

問　結局バベルの塔を作ってた人たちの何が神の怒りに触れたのか？

問　言葉を混乱させる（多数の言語に分かれる）って何を象徴してるか？

(→ここで象徴される「言語」って、人にとってそもそも何なのか)

問　バベルの塔崩壊前って人間の社会はどういうものだったと思いますか？

→逆に言語が分かれて人間の社会ってどうなったと思いますか？

SQ.上の質問であったような現代の、あるいは歴史的なバベル的な弊害ってどうやって克服されるものだと思いますか？

※セム・・・ノアの息子の一人で、アブラム（後述）の先祖。セム語（アラビア語、ヘブライ語…etc）の語源でもある。

※アブラム・・・後のアブラハムと言われる聖書的に重要人物です。詳しくは来週以降の方がやってくれると思うので省略します。